

<平成29年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

神奈川県 川崎市立京町中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことの出来るものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等）を設け、
生徒が考える機会を作る



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



実 施 内 容

- 期 日 : 平成30年2月15日 (木)
- 場 所 : 川崎市立京町中学校
- ク ラ ス : 2年B組 (28名) 2年C組 (29名)
- オリンピアン : 村上 睦子 先生 (バスケットボール)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・簡単な自己紹介の後、今日の授業ではオリンピックやオリンピックバリューについて考えてほしいと授業の目的を確認。運動の時間の約束事として、ルールを守りどんなことにも全力で取り組むこと、友人と声を掛け合い協力すること、皆でアイデアを出し合って工夫し、それにチャレンジしてみようと伝え、ボールを使った準備体操に移る。

3. 主運動



・6班対抗で、シュート競争(計2回)を実施。ゴール下のマーカーからシュートを打ち、入れば1ポイント獲得。ゴールから離れた3箇所のマーカーからシュートを決めると2ポイント獲得。制限時間内に獲得したポイントを競う。1回目終了後、得点の発表と作戦タイムを設ける。

4. まとめ



・授業の始めに話した3つの約束事を実践して前向きに取り組んでくれたことがすばらしいと伝え、次の座学の時間では、オリンピックバリューについて、さらに詳しく考えるので、運動の時間の内容を忘れずに教室に戻るよう伝え、授業終了。



実施内容

■授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・村上先生が競技生活を通して感じたオリンピックバリューを伝えていきたいと授業の目的を確認。アトランタ大会の映像を見せながら競技について紹介。
- ・村上先生が実業団チームでプレーしていた経験や、オリンピック出場を通して抱いた新たな夢へ挑戦した過程を伝え、村上先生にとってのオリンピックバリューを説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- ・発問：これからの日常生活に活かせるオリンピックバリューを考えよう。
- ・発表：皆が協力して全力で取り組む、失敗を次に活かす(エクセレンス)、チームメイトに自分の意思を伝える、仲間に励ましや応援の掛け声を掛ける(フレンドシップ)、お互いのいいところを言い合う、上手な人のシュートを真似する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、日常生活の中でも感じることができ、バリューを意識しながら日常生活をよりよいものにしてほしいと伝える。
- ・東京2020大会では、オリンピックに興味を持って、自分に何ができるか考えながら行動することで、よりよい人生につながると伝え、授業終了。



実 施 内 容

- 期 日 : 平成30年2月15日 (木)
- 場 所 : 川崎市立京町中学校
- ク ラ ス : 2年A組 (29名)
- オリンピアン : 室伏 由佳 先生 (陸上競技・ハンマー投/円盤投)
- 授業のながれ : 運動の時間 (5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介をした後、オリンピックバリューの意味を簡単に説明し、運動の時間は、お互いを思いやり、尊重し合って、卓越性を目指してほしいと授業の目標を確認し、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・3チームに分かれて8の字跳び(90秒間×3回)を実施。チームごとに3つの競技名を決め、競技名を決めた順番に言いながら8の字跳びを行う。3つの競技名を言えたら1巡とし、90秒間で何巡できたかを競う。縄に触れたり引っかかったりした場合は数えない。「90秒間仲間を責めない、相手を否定するような言葉を言わない」ことをルールとした。

4. まとめ



・目標に向かう時うまくいかないこともあるが、人のせいにしては、よい結果は生まれない。運動の時間でも勝敗はついたが、みんなが卓越性を目指して取り組んだこと、仲間を否定しなかったことはとても大切だと伝える。座学の時間では、運動の時間に取り組んだことを聞くので、整理しながら教室に戻ってほしいと伝え、授業終了。



実 施 内 容

■ 授業のながれ： 座学の時間（6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・アテネ大会の映像を見せながらハンマー投げ競技についてルール等を紹介。オリンピックで着用したユニフォームを見せ、ハンマー投げの経験を通して感じたオリンピックの価値を伝えたいと授業の目的を確認。室伏先生の経験を通して感じたオリンピックバリューを説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



・発問：運動の時間に感じたオリンピックバリューや日常生活で実践したいバリューを考えてみよう。
・発表：記録を伸ばそうと努力した、目標を持つ(エクセレンス)、声を掛け合う、励まし合う(フレンドシップ)、否定しない、ポジティブな気持ちを持つ(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・発表してもらったように、考えて書いた言葉は心にも残るので、今日書き出した言葉を忘れないでほしいと伝える。運動の時間に感じたことや日常生活について、オリンピックバリューに当てはめて考えてみたように、普段から自分が努力していることが何に当てはまるか考える習慣をつけると、物事の背景が分かるようになる。
・相手を否定することは、相手を尊重できなくなるだけでなく、自分も努力が続かなくなってしまうので、まずは受け入れてから、一番大切なことは何かを考えるよう心がけてほしいと伝え、授業終了。